

校長通信

第3号 令和6年5月31日

降誕会での法話から 「迷者不問道」とは

5月21日（火）、本願寺小樽別院において、降誕会が行われました。

降誕会とは、浄土真宗を開かれた親鸞聖人が、今から約850年前の1173年5月21日、京都醍醐日野の里で誕生されたことをお祝いする仏教行事です。「仏教精神を基調とした教育を行い、有為な人材を育てる」を建学の精神とする小樽双葉高校を象徴する学校行事の一つとなっています。

御輪番は法話の中で、元京都府立大学名誉教授の西元宗助先生にまつわるお話をされました。

西元先生が戦争中、道に迷って難儀していた時に、若い兵隊がタバコ屋のおばさんに道を尋ねてくれたおかげで、無事に目的地に着いたということがありました。その時この兵隊は「迷える者は道を問わずな」と言ったそうです。この言葉は、もともと小学校卒業時に、担任の先生から贈られたもので、「常に謙虚にいて、わからないことがあったら、信頼のおける人から教えてもらいなさい。」と言われたそうです。西元先生は、知ったかぶりをして道をたずねようとしなかった自分の行動を強く恥じたということでした。

学習においては、自分が知らない、できないことを悟られるのが嫌で、わかったふりをすることがよくあります。しかし、そういう悪しきプライドは自分の成長を妨げます。（国語で学んだ、あるいはこれから学ぶ『山月記』は、自尊心のせいで虎になった男の話です。）

問題の解決に当たって、試行錯誤をすることは大切です。でも糸口が見えていることについてあれやこれや考えることはできますが、未知の問題、糸口が見えない問題は、悩んでも限界があります。ある意味で時間の無駄です。そういう時は、見切りをつけて、解法を調べる、人に（先生や友人）に聞くなど、別の方法を取るのが得策です。

ただ、人に聞くとと言っても人の言うことをただ聞きさえすればよいわけではありません。それが正しい教えなのか見極めることが大切になってきます。失敗しないために、信頼できる師や友を見極めるとともに、見極める力を養う必要があります。



スマホと学習に関わる最近の研究

前期の中間考査を間近に控えた皆さんに、アメリカのテキサス大学の研究結果を紹介します。

心理学者であるエイドリアン氏が、次の条件で、800人の被験者に、数学の問題を解く問題と図形を完成させる問題を与え実験を行いました。

一部の被験者には、自分のスマホを別の部屋に置いておくよう指示し、それ以外の被験者には、スマホをポケットに入れたままにしておくか、机の上に置くかしてもらいました。実験の結果、スマホがどれだけ手取りやすい位置にあるかが被験者に強く影響を与えたことが分かりました。スマホを別の部屋に置いておいた人たちが、最も良い成績を上げ、目の前に置いておいた人たちの成績は最低で、ポケットにしまっておいた人たちにも、認知能力の低下が認められました。

6月5日（水）から前期の中間考査です。学習中スマホを遠くに離しておくだけです。誰にでも簡単にできます。今日からすぐに実践し、実のある学習となるよう願っています。

